

スポーツ万歳!!

— 県民総スポーツ運動 —



スポーツを通して住民相互の連帯感を強め、ふれあいのある地域社会をつくろうと、50年4月に「県民総スポーツ運動」を提唱してから3年が過ぎようとしています。この間、皆さんの理解も高まり、県内各地には数多くのスポーツクラブが誕生しました。クラブ数4,200、加入人員98,000人にのぼり、また社会体育施設は1,103ヶ所、このうち161ヶ所に夜間照明設備があります。今後、市町村や関係団体の協力を得て、ますますこの運動を盛り上げ、各家庭までその輪を広げたいものです。(松橋町バレーボール愛好会のメンバーと沢田知事)

わたしの郷土

産山村立山鹿小学校 六年 碓井幸家

僕達の住む産山村は、九重連山のふもと、標高約六百五十メートルの所にあります。人口約二千人、面積約六十四平方キロメートルの小さな村ですが、自然の美しさはどこにも負けません。村の約三分の一が山におおわれ、この山々をぬうように、産山川、山鹿川が流れています。村では、このような川に、ヤマメを自然放流して、養殖をしています。

産山の産業は、米・畜産・養蚕を主軸とし、ほかに、林業経営、又特産としては、椎茸・たかな漬けなど、みやげ品として出荷しています。

産山の四季はすばらしいものです。

春はまず野焼きから始まります。どここの原野でも、火消棒を手にした人たちを見かけます。野焼きの後には、わらび、ぜんまい、うどが、芽を出します。僕達は、手がまっ黒になって、かごいっぱいわらびを採ります。その時の喜びは、都会の人には、わからないと思います。

夏は祭りの季節。笛や太鼓の音が山にこだまします。又各種のスポーツ大会などの行事も行われます。

秋は、虫の鳴き声に耳をかたむけ、すみきつた空を見上げると、月の光が一段と輝くように思えます。

大きな波のようにながれながら続く草原には、すすきの穂がゆらぎ、緑一面の杉林の中に、もみじやつたが、赤や黄色の色どりをそえてくれます。

谷の田んぼには、黄金の稲穂がうねります。

秋の収刈が終わると、きびしい冬が、足音もたえずに、静かにやって来ます。

九重高原一面、山から谷間にかけて銀世界になり、さながら夢の国：別世界のながめです。僕は、こんなに自然にめぐまれた産山村を、いつまでも大切にしようと思っています。